

浪華帖假名卷下

486  
3526  
2-2



多  
3526  
巻 2-2

浪華帖假名卷下

無名氏



たのうらまされれみまよしみちのうらま  
しうらまあらめわのこしむらま  
わのまにむらまはれりむらま  
ふあまのまはまのまはま  
わのまのまはまのまはま  
ゆまのまはまのまはま



わ。たもひのまはみせはるこら  
きあこぬのうられたまふひろいぬ  
たねまともいなやまとあひ  
ちみつまじいぬひろよき  
まじつみれよよきこもにいぬひ  
よよひのつよよすみあ。

詠雨

吾妹ふと赤裳袴之將滌滌今日之露  
霖尔吾共所沾名

わをいそこのあのもれおをころあん  
とくあつあのふあよわしやわらき  
あさか華らんやまらたなひくうたわ  
あまてせんひむわのこひむの  
あよあまのあねきくうの  
あまのうらわななるうて

わろこえてとせしほのうまのいしほし  
わろしとまてよ<sup>合</sup>おろてありまて  
朝入の流海東通女お之神通治西衣雖干絶不航  
いさわちうあろやもかかか念てと伊わ  
ぬれうしとちきもかはうあ  
らかろあろてしと伊よとあしとあし  
ちわろしとあおろしとま  
乃とのうあよほあろあまのいしあひれ  
ひらまこいしとあまもあろていし

あせとにいとけきとら—いあのは  
らあ—あしほらうたよ—あましと  
けよのいあとたあひてとあ—あひあの  
あましとあ—あましとあましと  
うしとあましとあましとあましと  
けよのあましとあましとあましと  
あつたあまのあ—あまのあまのあまのあ  
あまのあまのあ—あまのあまのあまのあ



遠有雲居全所見妹家全早將至歩里<sup>黒</sup>駒  
あまかや見えやまはれたなまゝくうたや万  
あまのしんひらわつるまゝあま

何しんひらのやまのそのものたのまゝ  
つは子持のつがくもたらわつた  
わつは子持のつがくもたらわつた  
さうたのつがくもたらわつた

巖城の直越来益儀坪許ぬまの瀨全  
去主の侍

いしやまのつがくもたらわつた  
いしやまのつがくもたらわつた

春日野之浅茅之原全後居る其時交無を忘

良苦者

うまのつがくもたらわつた  
うまのつがくもたらわつた

位者乃崖企向有溪蹊鳴阿恰登君平不言  
日者無

まふみよーよきーしむじのうろあらしちせり  
あれともみをいそぬいそなみ  
あーあよのちよきーしむじのうろ  
のえらたともみよきーしむじのうろ  
わろあらしよきーしむじのうろ  
こよぶ、みせんすろあしそ

あらしよきーしむじのうろ  
あまのうろよきーしむじのうろ  
むろあらしよきーしむじのうろ  
はのち福しるうろよきーしむじのうろ  
山當かかんちるうろよきーしむじのうろ  
くらふもと松きひきるうろ  
よのちよきーしむじのうろ  
くらふもと松きひきるうろ



うゝいそめしちうよさるるしし  
わろりそみたちいそよあふみしと  
しそいぬのちね能柳さるるいよあつ  
くらまろしそいよみたるい

百儀城之宮人之邊有垂柳を雖身不能鴨  
きくしよのちみわあとのかきしたる  
きくし柳さるるいとあふねと  
んめのをれとわさてとれいわあふの柳

のちねしおとちゆつと

櫻花時者雖不見人感盛常々ち物落

はくしちいしはまよ梅とみるい  
のちいしとちいし  
としよまよんちはちとちちち  
のよあまのちしちちち  
たつちぬのちちちちちちち  
われしちよありとちちちちち





なま〜りれ〜ぬよのたをまぢあ〜り  
さ〜いも〜い〜りま〜い〜ち〜い

おまのま〜い〜りま〜い〜り  
新〜い〜り〜り〜り〜り

む〜い〜り〜り〜り〜り  
もの〜あ〜い〜り〜り〜り  
〜り〜り〜り〜り〜り  
〜り〜り〜り〜り〜り

ゆ〜い〜り〜り〜り〜り  
れ〜り〜り〜り〜り〜り  
し〜り〜り〜り〜り〜り  
ま〜り〜り〜り〜り〜り

お〜い〜り〜り〜り〜り  
う〜り〜り〜り〜り〜り

新〜い〜り〜り〜り〜り  
ま〜り〜り〜り〜り〜り

かつとて我あつとせりんかたかたのう  
くわつとて我あつとせりんかたかたのう  
靴つとていこつとていこつとていこつとて  
れいこつとていこつとていこつとて  
きつとていこつとていこつとていこつとて  
しつとていこつとていこつとていこつとて  
はつとていこつとていこつとていこつとて  
きつとていこつとていこつとていこつとて

可麻久良乃美胡之能佐吉能伴波久歡  
乃彼美我久由倍後已許呂波母多自

このまらうののみくのきよれいさうを  
れきまわつとていこつとていこつとて  
まのれいのみきよれいさうを  
よれきまわつとていこつとていこつとて  
まのれいのみきよれいさうを  
かつとていこつとていこつとていこつとて



海原乃由多氣伎見都者あう流  
なみ波をき波信ぬ信久於も保由

妙もけつにみふねおろほさやあぬ  
さいまけらるあやいもははるかに

さくらにはまいまさうあなあぬまはの  
うみだしうらるあやうらるめはま

ああつちのふをいのりてきとわぬ  
甚流うのあまさうてゆくわぬ

なううはるもさうさうみれをうらあ  
ういまたうらうもさうたをひく

うたこのせきもあつひあぬのあ  
てわ。うもをうらあやあつさし

者乃らあ乃うみ能奈波佐ああな  
解者此多志澄もあ伎あああもあ

流のうらうみれあよあなうれよう  
ひううてさあまのああめあ

わのあああああああああああ

こひきくちなりまーしーる

阿かお伎乃か波多例お招尔之麻か招  
ま己招ふ之布祿乃他为招之良は毫  
あつたすのつけしたもまーしーる  
まーしーるふねのたつしーらまーし

あせいなゝゝあつたひたちてまあゝゝ  
みわらゝよゆらゝまわらゝいせ  
いせいせいせいせのまーしーるまゆ  
ひよゆせらゝいせいせいせいせ

いりあゝゝいせいせいせいせ  
みせゝゝゝいせいせいせいせ  
まゝゝゝゝいせいせいせいせ  
かゝゝゝゝゝのたもひもまゝ

まゝのうゝゝあゝれゝゝあゝあゝ  
あゝあゝゝゝゝのまゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝあゝたゝゝゝゝあゝひみ  
あゝあゝゝゝゝあゝゝゝゝあゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
はゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ





いづれか見しはさせんうらたれ  
たわひふたすくしあらん  
いろのかえつまたあまたよあつめとわ  
ういほまきしおまつきうし  
あきわれといふもむほあけゆけを  
まきのもほむえんわのつしよよあ  
あつあつまたおあつたあつたのそ  
まのほあつしうゆ

衆頼晚興林頂老群源暮町谷心寒 林群老の

群のよそしてはなこそそしうのそあ

おのあつものすはあゆあけれ

あつた井つちうと山あけあきあ

えんじのゆあつあつ

三三三あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ あつた

日勝波平孤峰暮風吹岸遠客帆寒

佐清

東西... 影... 地

... 山

... 山

... 山

朔候日高冠額披夜行沙厚履於忙

... 山

我を... 山

... 山

... 山

緑草如今... 山

... 山

... 山

向晚... 山

業としかくくあるものゆゑの押しあはれ  
月のしるよそへなぬきを  
もくしんやうきん東の事あり 可憐のよめ  
とまおるやんといふ事ありの程  
いふはたまたまの事なりとて  
いふはたまたまの事なりとて

已終未習千年役僅得難逢一糸文 係流

こころちかふ事にくれやういわれ家  
らうあはれいふはたまたま  
とてたまたまはたまたまはたまたま  
とてたまたまはたまたまはたまたま  
河橋多羅三穂と喜授の伝わりし  
ようと名額ありとてまよふ  
係流  
係流  
そのようく喜授の傳ありとてまよふはたまたま

鶴閑翅刷千年雪僧老眉垂八字霜 意

さしとるまはな一あり礼とくもせとるまの

乃我かろくまのすれあのみ 良徳心

年乃中まもる西のかりよれ新のまは

かぬいのりさうとく あ

ふた、それまよ新 まの

時 我のま

納涼

志

か半月夜 あ

いはれ まは

みわりのま

本集 あ 年 あ

七夕

あはれ乃うははち

わしの娘

ふとる市井よ

いぢねる

あし

梅女阿はち

あはれ乃うはち秋の舞の

あはれ秋末

あはれ乃うはち

あはれ乃うはち

あはれ乃うはち

あはれ乃うはち

あはれ乃うはち

一母子まゝのつらさ

ひまわり

月十の夜

街門

町家の夜半の静けさ

の静けさ

秋の夕方の静けさ

静けさ

之代敷詞能出極多雁来候  
証之外未見之下名姓者余  
好古字跡一得之目極硬黄抄  
持ふ必家(一)之而(一)但持其

深麗姍姍風波可少矣體裁  
可法志々々々々々  
世後者輩一正焉  
文政三年丁九月

竹宮素川世黃識



